

ハグロトンボは、50年ほど前は弘前市の土淵川周辺でも普通に見られましたが、その後次第に見られなくなってしまいました。しかし、5年程前から次第に目撃数が増えてきたそうです。

ひろさき環境パートナーシップ21(HEP21)の自然環境グループリーダーとして活躍している村田孝嗣さんにお話を伺ってきました。

・ハグロトンボ

昭和20年代後半には、ハグロトンボやホタル等たくさんの生物を目にしていたのですが、昭和30～40年代頃からだんだん見えなくなってしまいました。昭和50年代中頃に、ハグロトンボを探しに県内を回りましたが、十二湖の八景池、六ヶ所の市柳沼、三沢の寺山修司記念館付近の池の3箇所にしかみつけることができませんでした。平成17年からHEP21のメンバーへの聞き取りという形で目撃数を毎年調査していますが、徐々に目撃数が増えている事が分かりました。今年は、新聞報道をして広く情報を収集しています。トンボは、成虫になるとかなり移動すると考えられるので、7月、8月、9月と、月ごとの目撃数も調査し、移動や個体数の変化を観察できればと考えています。これらの調査結果は来年1月の「自然学習発表会」で公表する予定です。

ハグロトンボの目撃数が増えているのは、農薬の性能変化の影響が大きいのではないかと考えています。また、下水道の整備によって家庭排水が河川にあまり入らなくなったのも関係があるのではないかと考えています。



ハグロトンボ



左：オス 右：メス

ハグロトンボの写真は村田孝嗣氏から提供いただきました

・だんぶり池 「だんぶり」とは津軽弁でトンボのこと

自然環境再生をやってみようという提案をしたもので、トンボだけでなく在来の動植物が住みやすい環境を再生することを目的としています。当時全国的にとんぼ池というものを整備する動きがあり、どうせなら津軽弁でということで「だんぶり池」と名付けました。良好な自然環境のためには、汚れていない「水」「空気」「土」が基本で、その三要素が作り出す草地、水辺、湿地、小川、池などが、多様な自然環境を作り出し維持しています。植物や生物を人の手で移植したり、持ち込んだりしなくても、水温や水深、流れの速さに変化をつけることで、植物は自然に自生し、生物は自らが好む環境に生息してくれます。

だんぶり池では、今年、ホタルが大量発生しています。ホタルのエサのとなるタニシが増殖しており、それにも伴いホタルも増えたのではないかと考えています。



弘前だんぶり池 とんぼがいっぱい！